

防災意識の高揚について



災害発生に備えて備蓄しよう！

- 非常時に持ち出す物をリュックサックに詰めておき、いつでもすぐ持ち出せるように準備しましょう。
- 非常食や飲料水、生活必需品は、3日分を目安に備蓄しましょう。

家族の安否確認方法を確認しよう！

- 災害用伝言ダイヤル「171」などを活用して安否が確認できるように、日頃から話し合っておきましょう。

避難場所や避難経路を確認しよう！

- 防災マップやハザードマップを確認しておきましょう。
- 災害の種類によって安全な避難場所が異なるので、家族で考えてみましょう。



昨年は、7月の西日本豪雨、9月の北海道胆振東部地震などで多数の被害が出ました。県内では、幸い大きな災害はありませんでしたが、いつどこで災害が発生してもおかしくない状況です。

地震や豪雨はいつ襲ってくるかわかりません。日頃から災害に備えるとともに、災害の恐れがある場合には、早めの避難を心掛けましょう。



☎ 南三陸警察署 ☎46-3131

救急車が来るまでに
あなたにできることがあります!!

救急現場に居合わせた人（発見者、同伴者など）のことをバイスタンダーといいます。心臓や呼吸が止まった人に、バイスタンダーとなった人が早期に心肺蘇生（心臓マッサージ・AEDの使用）をすることによって患者が助かる可能性が高くなります。

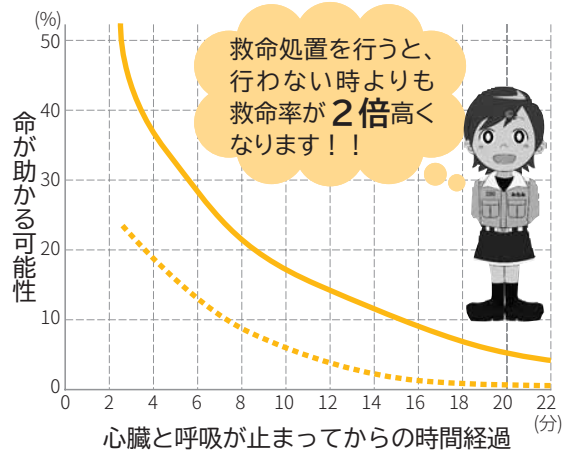
積極的に救急講習を受けよう

いざという時、心肺蘇生を行えるように救急講習を積極的に受講しましょう。申し込みを希望する人は消防署に相談してください。



☎ 南三陸消防署 ☎46-2677 / 歌津出張所 ☎36-2222

- ・時間の経過で低下する救命のチャンス
- ・応急手当が救命のチャンスを高める



★ みなトシ ★
～南三陸のたからもの～

貞任山 (さだとうやま・さだれやま・さだりやま)



旧志津川町と旧歌津町の境に位置する標高360・3mの山です。米広から貞任山東麓を縦断し、田東山に至る道は参道として使われ、かつては多くの参拝者が行き来した場所でした。貞任山麓はみそぎの場となり、僧侶や参拝者の宿泊施設である宿坊が発達しました。

前九年の役(1051年)で敗れた安部貞任が隠れ住んだと伝えられる山でもあり、貞任が隠れた岩穴や「貞任屋敷」と呼ばれる場所もありここには礎石とみられる大きな石が並んでいます。南側麓の米広、大上坊集落は貞任の子孫であるといわれ、かつて全戸が安部姓を名乗っていました。また、麓では「さだりやま」と呼んでおり、田東山山頂を龍の頭、尾崎を龍の尾とみたとき貞任山が左足部分にあたることから、こう呼んでいるという説もあります。

※「貞任山」は、「さだりやま」のほか、「さだとうやま」「さだれやま」と様々な読み方があります。

☎ 教育委員会生涯学習課 ☎46-2639